

参加人員： 市民23人

市職員： 9人

アドバイザー： 静岡大学人文社会科学部 日詰一幸教授

事務局： 市長公室課地域政策担当

○「I トーク 2012」(市民討議会)の目的

様々な市民の方々が交流して意見交換を行い、市民参加によるまちづくりへのきっかけとなること及び市民の真の声を聞くことを目的とする。

○参加者の決定

①無作為抽出(層化抽出法)により、市民1000人に対し、参加依頼を行った。

対象は、18歳以上で伊東市に住民登録のある市民。(外国人は除く)

地区の人口、男女比率、地区の偏りが無いように抽出。

②参加依頼により52人の市民から参加希望があった。

③参加希望の52人の内、抽選により27人に参加通知を送付。

④「I トーク 2012」までに当日までに5人が欠席となり、22人の参加者と市職員の9人の計31人により、討議を行った。

○「I トーク 2012」(市民討議会)の当日スケジュール

参加者をA~Fのグループに分け、グループごとにポストイット方式により討議を行った。

以下、当日のスケジュール

9:00 開会

9:05 自己紹介(進行役・事務局)/アドバイザー紹介

9:15 説明 「市民参画とは?」「協働とは?」/協働のイメージ/本日の討議会の目的・意義

9:25 グループ討議 テーマ①

・グループごと自己紹介(5分)

・説明(20分)

伊東市の市民参画・協働の現状/「市民参画のまちづくり推進計画」における取組

・ポストイット(付箋)に意見を書く。(10分)

・グループ内で発表し、模造紙に並べる。(15分)

・似た意見のものを集め、くくりを書き「小見出し」をつける。(25分)

・グループ内で話し合い、重要と思われるもの3つに絞り、3つ以外に残したいものを2つ以内で残し、別の模造紙にまとめる。(15分)

10:55 テーマ① グループごとに発表(3分×6グループ=約20分)

11:15 投票(10分)

11:25 投票結果

11:30 昼休憩

12:30 グループ討議 テーマ②

・グループごと自己紹介(5分)

・テーマ②説明(10分)

・ポストイット(付箋)に意見を書く。(10分)

・グループ内で発表し、模造紙に並べる。(10分)

・似た意見のものを集め、くくりを書き「小見出し」をつける。(20分)

・グループ内で話し合い、重要と思われるもの3つに絞り、3つ以外に残したいものを2つ以内で残し、別の模造紙にまとめる。(15分)

13:35 テーマ② グループごとに発表(3分×6グループ=約20分)

13:55 投票(10分)

14:05 投票結果

14:10 ローテーション

14:15 グループ討議 テーマ③

・グループごと自己紹介(5分)

・テーマ③説明 (10分)

・ポストイット (付箋) に意見を書く。(10分)

・グループ内で発表し、模造紙に並べる。(10分)

・似た意見のものを集め、くくりを書き「小見出し」をつける。(20分)

・グループ内で話し合い、重要と思われるもの3つに絞り、3つ以外に残したいものを2つ以内で残し、別の模造紙にまとめる。(15分)

15:25 テーマ③ グループごとに発表(3分×6グループ=約20分)

15:45 投票(10分)

15:55 投票結果

16:00 講評・閉会・解散

○討議によるテーマごとの意見

## テーマ1 市民参画・協働の目的やその必要性とはどのようなものでしょうか？

1. テーマ1に対し、ポストイットに各自意見を書き、グループ内で発表。似た意見を集め、「小見出し」をつける。

### Aグループ

<b>市民からの幅広い意見収集と交換</b>
市民目線での必要な行政が見えてくる
価値観の多様化している今日、市民のニーズを多くとり入れる機会となる
市民の声を取り入れることで、この地の特性を理解できる
具体的意見の収集
他業職で話し合うことで、色々な角度から意見をくみ上げることができる
多くの意見を出すことにより、新しいアイデアが生まれる
会議室だけではできにくい生の声をくみ上げることができる
双方向の情報意見交換
市民（住民）のニーズにあわせたまちづくりができる
外部の視点により古い（時代にそぐわない）慣例を改善
<b>行政の意識改革</b>
市民意識（民度）の向上
民間の問題意識の市政（行政）への注入
市民の溝をうめる
行政参画意識の向上
市職員数の提言の中での民間の活用がパワーとなる
役所的ルールへの民間感覚の導入
役所的発想への市民感覚の提起
<b>郷土愛への向上</b>
地域内での人と人とのつながりが強くなる
伊東が伊東らしく魅力的になるため
市民参画での市政（行政）への参加意識
<b>魅力ある伊東を作る</b>
まちづくりの方向性をとらえる機会としたい
伊東に生まれ育ったことを誇りに思える市にする
<b>手段役割の明確化</b>
行政ではできないことにも取り組むことができる
行政でなければできないこと、市民だからできることを見極めて無駄を省き活性化できるのでは
<b>市民の意識改革</b>
地域に対する関心の向上
自分たちの街を、より愛する気持ちが生まれる
<b>その他</b>
町作りの統一

### Bグループ

<b>市民と行政の意見・双方の協力～市民参加により市政のスムーズな運営</b>
細かい所まで目が行き届かないので各地域の市民の力を借りる事ができる
まちづくりの活動と一緒に取りくめる
市民が求める行政がわかるので方向性がはっきりする
生の声が聞けるので的確な行政ができる
いろいろな年齢の方の意見を聞ける
市政のスムーズな運営（業務も含め）
様々なレベルの市民がいるので、しっかり目を向け、耳を傾けられる
お互いの立場で求めていることを協力して進めていける
市民参画で伊東のため色々意見交流すること、必要でしょう

<b>問題点の認識</b>
市職員だけだと、かたまりが生じる 市のムダを排除していく
伊東市の問題点を意識できる 行政、市民の考える良い事・悪い事がわかる 本当の実態がわかる 問題の多さを市職員に認識してもらえる
<b>市民のまちづくりの参加意識</b>
まちづくり参加の達成感 市民参画で伊東市を住み良い街にしていくのは自分達だという自主性が市民にできる まちづくり参加の責任感 話し合うことにより責任感が生まれる 市民参画することで、より伊東市のためになる
<b>行政への信頼が生まれる</b>
市役所での一日体験を入れ市役所、市民の一体化をはかる 市民の意見を取り入れてくれるという安心感と行政への信頼感ができる
<b>伊東市のカラーを出す</b>
伊東市の独自性を生み出せる 役所的発想への市民感覚の提起
<b>各地域の問題解決</b>
各地域の問題等よく聞き、市の活性化をはかる 地域、地区にそった悩みを解決していける

## C グループ

<b>統一感のとれたまちづくり</b>
住んでいる人が本当に求めているものを実現できる まち全体の大きな方向性を決められる オフシーズンのイベント、観光客集客 観光の案内板 見やすく 観光客が何度も訪れる伊東に 海岸のゴミの片付け 公共機関の充実 街灯の設置 大型のショッピングモールの建設 個々、地域バラバラの政策を市として統一し、大きなプロジェクトに 統一感とれた政策 伊東市民全体でのまちづくり 個人から団体へ 無料駐車場 連携
<b>要望、やりとりが双方向にスムーズになる</b>
住民がぐらしにくい部分など、小さな事でもわかる 役所言葉でかたい、市民にわかりやすくして 市民病院での困った事 わかりやすい市の情報発信 行政が行うことに対し住民がチェックできる ゴミ収集、びん、カン、資源 市役所のすぐやる課 市民のマナーの悪さ、主に車の運転手（女性に多い）
<b>新しいアイデア</b>
伊東駅前の広場利用 様々な意見 アイデアと法律的な実現性 民間の知識、技術の活用 新しいアイデア 行政では思いつかない新しい発想が出てくる 新しいアイデア（歴史を守りながら地方No.1となる町づくり） 個人に利益を還元しやすい政策

人口（男女比や年齢）の変化や時代にあわせた取り組み 地域の特性を生かした行政の取り組み
<b>市内でつながりがとれる</b>
住民全体のつながり 事業所—学校—住民 地域や町内の身近な問題の解決へのきっかけになる 住民が必要としていることが行政に伝わる 行政が担う役わり、住民が担う役わりが分けられる
<b>その他</b>
地域の特性を生かしたまちづくり（地域の活性化） 町の活性化につながる

## D グループ

<b>地域住民の意識高揚</b>
地域からの人口流出 地域に根ざした会館活動 市民のモラルの低下を止める為の活動 ペットは第2の住民、もう少しペットの事、考えてほしい おいてきぼり感がある。やりたい方々が動いて、そうでない方が… 各区長と市民との意見収集の手段は？（各区長は収集しているのか？） 何事に関しても参加する人、しない人、興味のある人ない人の差が多い 地域住民の意識を如何に高揚させるか ①市政へ②区内の問題③会館（赤沢学習会館）と地域との関連 ④区内の抱える問題の解決などの方策など
<b>情報発信の手段</b>
他県へのPR 職員と住民の垣根がとれる 住民と行政との距離感縮小 住民の本当に望まれていることがわかる 他の市県の成功例・失敗例
<b>観光産業の活性化</b>
【観光】一碧湖のPR「伊豆の瞳（ひとみ）」 【市の駐車場】観光課も把握していないのが現状。もっと一碧湖を大切に 地場の活性化（産業・商業） 何より経済のUPする事 経済がUPしないと何もできない みんなが住みたくなる環境を作る
<b>高齢者等に配慮した街づくり</b>
住環境の改善 高齢者社会になるにつれての今後 交通弱者に対する移動手段の整備
<b>様々な問題が早期に発見できる</b>
行政とがっぷり4つに組める 組織作り 市の指導が後手になる（家庭ゴミの水切り）
<b>その他</b>
新しいアイデアが生まれる

## E グループ

<b>行政のやっている事へのチェック</b>
行政の考えを知っていただく機会がもてる 官庁の人では気が付かない事がわかり、市民の意見を取り入れる事が出来る。 10年前と何が変わったか、はっきりと分からない。 行政（市役所）のムダをチェックできる 推進計画であげられた5項目は市民が参画しなくても行政で出来た事ではないか
<b>地域、他業種の方との交流</b>
地域の方との関わりがもてる 職業別の会議も！

<b>今必要なものが何かの発見</b>
意見を共有することで本当に必要なものが何かを見つけることができる 市民の方の現在の生活に必要なものを聞くことができる
<b>現在の市のイベント、行事についての意見・要望</b>
按針祭 昼の行事 伊東市の行事 (例) 旅行とかやってほしい 祭
<b>福祉、税についての意見・要望</b>
高齢者の職場を少し増やしてほしい 高齢者の税金を減らしてほしい 福祉を受けている方は何もかもタダという事、納得いかない 特定保健指導の継続をする シルバー人材センター、介護保険、ヘルパー研修の継続
<b>行政への関わり</b>
市民の意見を行政に反映することができる 行政と市民の協働が活発になれば災害等の時に地域の連携が早く出来る 今後の伊東市の方向性を一緒に考え、共有することができる

## F グループ

<b>市民が安心して元気に暮らせる町づくり</b>
元気な町になりたい 安心して暮らすことができるまち作りができる ずっと暮らし続ける町づくり
<b>世代、地域を越えた意見交換の場所づくり～活動できる場を作る</b>
自分が参加できる活動を知ることができる もっともっと女性の意見や登用(町内会)等をしてもらいたい 意見を伝えられる場をつくれる 市民の行動範囲が広がる 選挙以外の方法で行政に参画出来るような「I トーク」を幅広く行っていったら良いと思う
<b>地域の課題や特色が明確になる</b>
広報が聞こえない所が多い 市からの情報がうまく伝わっていない 地域の特色が出る 商業だけに頼らず知的活動をすすめることができる 地域とのつながりが強くなる(一人暮らしの人など) 旧市内に観光の目玉を作ってほしい 地域の課題を明確に伝える事ができる
<b>地域のつながり</b>
結束が高まる 地域とのつながりが強くなる(一人暮らしの人など)
<b>わかりやすい税金の使い道</b>
税金の無駄使いをチェックできる 市民県民税が高い 観光にもっと市が協力してほしい。事業所にたよらない。 お金を使うようになり税収入が増える
<b>行政側のメリットが大きい</b>
行政への関心が高まる 協働する事で市民の方から安定した支持を受けられる
<b>世代、地域を越えた意見交換の場所づくり～世代、地域をこえた意見交換</b>
各地域、各年代に意見を吸い上げる事が重要

2. グループ内で話し合い、重要と思われるもの3つに絞り、3つ以外に残したいものを2つ以内で残したもの。(テーマ1)

Aグループ

1	市民からの幅広い意見収集と交換
2	市民、行政の意識改革
3	郷土愛への向上
①	手段役割の明確化

Bグループ

1	市民参加により市政のスムーズな運営ができる
2	問題点の認識
3	市民のまちづくりへの参加意識
①	行政への信頼が生まれる
②	伊東市のカラーを出す

Cグループ

1	統一感のとれたまちづくり
2	要望、やりとりが双方向にスムーズになる
3	新しいアイデア
①	市内全体でのつながりがとれる

Dグループ

1	地域住民の意識高揚
2	情報発信の手段
3	観光産業の活性化
①	高齢者等に配慮した街づくり
②	様々な問題が早期に発見できる

Eグループ

1	行政のやっている事へのチェック
2	地域、他業種の方との交流
3	今必要なものが何かの発見
①	現在の市のイベント、行事についての意見・要望
②	福祉、税についての意見・要望

Fグループ

1	市民が安心して元気に暮らせる町づくり
2	世代、地域を越えた意見交換の場所づくり
3	地域の課題や特色が明確になる
①	地域のつながり
②	わかりやすい税金の使い道

3. グループごとに出された、重要、残したいものに対し、参加者が1人3点を持ち点として、重要だと思う意見に投票した結果。(テーマ1)

得票	内容
13	市民のまちづくりへの参加意識
11	郷土愛への向上
10	地域住民の意識高揚
9	行政のやっている事へのチェック
9	地域の課題や特色が明確になる
8	観光産業の活性化
6	市民、行政の意識改革
6	統一感のとれたまちづくり
4	市民参加により市政のスムーズな運営ができる
3	市民からの幅広い意見収集と交換
3	地域、他業種の方との交流
3	今必要なものが何かの発見
2	要望、やりとりが双方向にスムーズになる
2	新しいアイデア
2	福祉、税についての意見・要望
1	情報発信の手段
1	現在の市のイベント、行事についての意見・要望

4. テーマ1の得票結果からテーマ2の討議内容を決定

**テーマ2** 郷土愛を高め、市民のまちづくりへの参加意識を高めるためには、

どのような問題点がありますか？

5. テーマ2に対し、ポストイットに各自意見を書き、グループ内で発表。似た意見を集め、「小見出し」をつける。

Aグループ

<b>情報の伝達方法の改善</b>
報道が終わった後になってしまう
さまざまな情報発信を構築する（インターネット、広報、etc）
市でやっていることをもっと多くの場所で知らせる
新規住民への情報発信
市内（地域間）での意識のズレ
ケーブルTVの番組をもっと魅力的なものにする
ボランティアにも進んで出るように
自治会などに入っていない人と情報や時間が共に過ごせない
伊豆新聞などの報道が、イベントが終わってから掲載されることが多い
<b>若者の減少</b>
ワークシェア
子供の数が少ない
地域の行事への若者の出席が少なくなっている
雇用の問題⇒若い人が伊東から出てしまう
伊東（地元）を好きになる
若者（子供）の減少、雇用先
参加したくても参加できない
交通機関の充実
各市毎（伊東）へのこだわりすぎるために伊豆全体での連携ができない
<b>生活環境の整備</b>
伊東市民の生活が良くなるように！
住民同士の集まる場を多くする（教室、祭り、収穫祭、スポーツ etc）
ばらばらでは意味がない、みんながまとまる必要がある
外灯が少なくて町全体が暗い
夜出歩けるようなまち
道のゴミをなくすように
<b>観光事業整備</b>
文化人にもっと来てもらう
各地区の整備事業、自然整備（山、公園、海）、歴史遺産の整備
他の市に負けない良いところが見つけられない（伊東をよく知らない）

Bグループ

<b>市民の意識</b>
共通認識、問題点の共有
市民であることの誇りと自覚を持つ
市民が常に問題意識をもち積極的な行動をおこしていく
広報「いとう」に目を通したら、地元紙を読みたい
地域をよりよく識るために周辺地域も識る
市民憲章の再認識と再確認
地域内、横のつながりの強化、共同体の硬度

<b>郷土愛</b>
よりよく郷土を知ろう、歴史・地質など
幼少期からの伊東の自然体験～行政体験等の教育のあり方
子供が遊べる場が少ない
郷土の歴史文化に対する知識
<b>意見の収集</b>
市民の考え方、意見等、吸い上げ生かしていく
イベントなどの企画案も目安箱を投書することとし、市も積極的に活用していく
地域、年齢、性別等、公平な立場からの情報収集が出来るのか？
<b>具体策の提言</b>
全体として目指す理想像の創出
官民の垣根を越えるためにはどのような方法があるのか？
気のついた事を発表する場が欲しい
<b>イベントの参加</b>
まちづくり、イベントに参加していく（市民が）
伊東市民検定等、興味を引くイベント、行事のあり方
<b>情報発信</b>
伊東市の好い所、好い点等の市民による発信、PRのあり方
今回の案内の郵送の前に「I トーク」の広報に務めるべきであった
市発信ではなく、市民発信できる場、方法がわからない
平易な情報発信
情報の発信、受信方法
市がもっとピーアールし積極的な参加を求める
<b>現実問題</b>
市民発信で物事を起こすにはお金がかかる

## C グループ

<b>住みたい町</b>
お年寄りから子供まで住みやすい町になっていない
Uターンしてでも地元で生活をしたいと思う魅力をつくる
<b>観光地としての価値を生かしきれていない</b>
土地の魅力を生かしきれていない
伊東の良いところをもっとみんなで意識すべき
海岸清掃、街の清掃参加
伊東市の文化、歴史的行事が希薄になっている
観光資源の有効活用
若い世代の人が来たい（行きたい）と思えるような場所も必要ではないか
自然だけではなく何か観光のメインになるものがあるといい
<b>住民のまちづくりに対する参加意識が薄い</b>
自治会への参加に乗り気ではないのでは？
市を良くするため、行動せず人まかせなどところがある
住民全員のまちづくりへの参加意識が少ない
誰かがやってくれるという思いの人が多い
無関心層
行政が主でなく市民が主で行うイベントなどがあると良い（参加意識）
<b>情報収集</b>
アイデアを伝える手段がわからない
若い世代自体が減っている
行政が住民の必要としていること、不安に思っていることを把握していない
<b>市内での活動の情報発信が不十分</b>
市民団体の活動、資金など、もっと支援しますよう。伊東のまちづくりのために…
広報という市民活動欄を新設してはどうでしょう、参加意識を高めるため
イベント等いつ、どこで行うか知らない事がある
参加者が消極的である
<b>若年層の減少</b>
若年層の参加
子供に参加させる様、働きかける

伊東市がどんな市として政策をたてているかのビジョンが伝わりにくい
<b>その他</b>
第3者からの意見をくみ上げる ex 観光客

## D グループ

<b>郷土を愛する仲間づくり</b>
今回は個人として参加している、市民や民間団体からの働きかけ
<b>住民間の温度差の解消</b>
温度の低い人の意見をどの様に取り入れるか？
市民間での意識の格差
住民の間で温度差がある
市民のマナーの向上
自分が住んでいる街なのに人事のように思う（自分さえ良ければ他人はどうでも良い）
<b>底辺からの広がり（ボトムアップ）</b>
参加の仕方を類型化すると個人、職場、町内、サークルなどがある
企業として地域にどのように参加できるか
小さな団体などから意見を求め、それを固める（地域・職業・サークル・NPO）
今日のような場を作っていただく機械を増やして欲しい。市と市民の話し合いの場が少ない
<b>地域共同体の弱体化</b>
まちづくりに参加する場が少ない
地域共同体の弱体化
町内会の人達との連携
地区や地域内での結びつきが弱い個人主義的な空気がある
同意形成の提案の場の欠如
<b>情報ツールの開拓</b>
フェイスブックやツイッターなどで集める
意見があっても言っていく手段がわからない、誰に言えば良いのか
市外にいる元市民に意見をもらい、多くの意見を吸い上げる
情報の伝達や共有をする手段が少ない
<b>伊東市の良い所の掘りおこし</b>
郷土愛を感じるものが少ない
伊東市の良い所の掘りおこし
<b>市に対する不信感</b>
市職員行政と市民の間に隔たりを感じる（一人一人は気持ちがつながっても集団対集団だと？）
意見を言っても相手にしてもらえないという意識がある
<b>その他</b>
参加意識と郷土愛とは互いに相乗効果をもたらす関係にあることを基盤としてとらえておきたい

## E グループ

<b>郷土の特色の理解と観光PR</b>
各地域に解りやすい掲示板を作る
町内会のあり方？
伊東市のことを書いた総合誌
伊東市の良い所をもっと分かりやすく市民の方に伝える（観光地等）
自分の住んでいる地域のいい所を把握する
伊東の良さのアピール！アンテナショップなど
他県への観光地としてのPR不足
観光客誘致（郷土PR）
マスコミ等で伊東をPR（観光）
住民のモラルUP、もっとPRする
旧市内で観光的な目玉のような、ほしい
<b>行政からの情報発信</b>
自分にプラスになることがあれば参加する（参加したくなる）
今以上に市のやっている事を広く周知していただくようにする
市民のみんなが情報に興味を持つ
市民の意見がどのように反映されているのかをもっと分かりやすく伝える

<b>意見交換の場をもっと設ける</b>
いろんな人が市の行事に参加出来るように、休日だけでなく平日にもやる
もっと市民の方の意見を聞きやすい場を作る
地域の中で自由に話し合える機会と場
老人、ペットに対しての意識をもっともっと高める為に定期的にサークル活動などをやる
活発に意見を交換できる場を設ける
<b>雇用の創出</b>
雇用問題
新しい産業の立ち上げで雇用を増やす
<b>市民の安心できる場所、制度を作る</b>
安心して生活が出来る老後（保障）
市民の憩いの場はどこなのか？
幅広い世代から対話や今回の様な話し合いの場を持つ
<b>地域の行事への市の積極的な参加</b>
市の南部の行事等では事業所だけでなく市にも協力してほしい

## F グループ

<b>伊東を代表するような新しいイベントの創出</b>
伊東をPRできるイベントが少ない
町内対抗の各種のイベント開催
特産物の説明、売出し
花を町に植える
一碧湖で花火大会やろう!!
偉人めぐり
自治会以外に市全体でとりまとめるような数々のイベントが（年代別などニーズにあわせて）少ない
<b>地域同士の協力体制の充実</b>
行政から市民だけでなく、市民同士のつながりの場が少ない。やっているとこはあっても小さな集まりだったりするので市が中心となって横のつながりをつくる
郷土を愛するための仲間を作る
<b>市民全体のイベント不足</b>
企画運営を市民に
<b>伊東市の方向性が分からない</b>
伊東市の『ウリ』の方向性がわからない
<b>その他</b>
若年層の参加意識の低下
参加するための環境整備
市民個々に郷土を愛する気持ちを持つ事
有意義な意見があつて、仮に実現できたとしても、そこに行くまでに時間がかかりすぎている
市民自身が住んでいるところの良さをわかっていない（学校や行政のアピール不足）

6. グループ内で話し合い、重要と思われるもの3つに絞り、3つ以外に残したいものを2つ以内で残したもの。(テーマ2)

Aグループ

1	情報の伝達方法の改善
2	若者の減少
3	生活環境の整備
①	観光事業整備

Bグループ

1	心から伊東を愛し行政に参加する意識が低い —意識の低下—
2	草の根的な市民の意見の収集、交換が難しい —意見の発信・収集—
3	具体策の提言(イベント、発信の場等)
①	現実問題(お金)

Cグループ

1	住みたい町、住みやすい町になっていない
2	観光地としての価値を生かしきれていない
3	住民のまちづくりに対する参加意識が薄い
①	情報の収集、発信が不十分
②	若年層の減少

Dグループ

1	郷土を愛する仲間づくり
2	住民間の温度差の解消
3	底辺からの広がりとボトムアップ
①	地域共同体の弱体化
②	情報ツールの開拓

Eグループ

1	郷土の特色の理解と観光PR
2	行政からの情報発信
3	意見交換の場をもっと設ける
①	雇用の創出
②	市民の安心できる場所、制度を作る

Fグループ

1	伊東を代表するような新しいイベントの創出
2	事業者同士、地域同士の協力が足りない
3	市民全体のイベントが足りない
①	方向性が分からない

7. グループごとに出された、重要、残したいものに対し、参加者が1人3点を持ち点として、重要だと思う意見に投票した結果。(テーマ2)

得票	内容
17	具体策の提言(イベント、発信の場等)
13	郷土を愛する仲間づくり
11	郷土の特色の理解と観光PR
8	観光地としての価値を生かしきれていない
7	生活環境の整備
7	事業者同士、地域同士の協力が足りない
6	若者の減少
6	住みたい町、住みやすい町になっていない
6	行政からの情報発信
4	現実問題(お金)
3	心から伊東を愛し行政に参加する意識が低い —意識の低下—
2	住民間の温度差の解消
1	情報の伝達方法の改善
1	草の根的な市民の意見の収集、交換が難しい —意見の発信・収集—

8. テーマ2の得票結果からテーマ3の討議内容を決定

**テーマ3** 協働をしていくために、情報を共有し、具体的に提案する機会や場を市民と行政はそれぞれどのように作ることができるか考えてください。

9. テーマ3に対し、ポストイットに各自意見を書き、グループ内で発表。似た意見を集め、「小見出し」をつける。

Aグループ

市民/行政/ 共通の別	内容
市民	<b>町内会のあり方</b>
	町内会に出席する(話し合いをする)
	町内会あり方?(内容、利用) 町内や地区で集まる
行政	<b>専門の窓口の設立</b>
	『イベントやっちゃう課』設立
	補助金制度を作る
	市役所に窓口を作る
	土日開設 コミセン活用(開放)
行政	<b>話し合いの場作り</b>
	定期的に話し合いの場をつくる テーマごとに意見交換会などをひらく
共通	<b>協働でのイベントづくり</b>
	市民一体のイベント作り 行政からのイベント提案
共通	<b>メディア発信</b>
	情報共有サイト民営化 伊東のアンテナショップの発信
共通	<b>その他</b>
	小学生や高校生たちからも意見を集める
	子供たちへの発信、参加(小・中・高へ伝達)
	公募で人を集め、一緒に決める
	行政からのイベント提案 行政と市民の懇談会の活発化(情報共有)地域ごと、性別・年齢別、職域別、団体別
市民	<b>その他</b>
	行政に意見を直に送る 市民が情報を受け取るようにする

Bグループ

市民/行政/ 共通の別	内容
行政	<b>アンケート箱の設置(地域別、年齢別など)</b>
	町内ごとにアンケート箱を設け、アイデア等を収集する
	会議を日時でわけ
	それぞれの年代層に合った意見の収集
	今回同様、無作為抽出で町単位、年令別(年代別)に選出し開催回を多く参集する
	自治会等団体に属していない人たちから意見を求める場を設ける
	町内会長→議員⇄(市役所⇄市民)
	<b>年代別に合わせた発信方法</b>
	行政が市民の話し合いの場に向く
	提案の機会と場(行政)、市民との懇談会
<b>Iトークの継続性</b>	

	伊東全体がさみしすぎる、もっと明るくする 伊東市の食物、おいしい物を他県の人に知ってもらおう 意見や要望を聞く場を設ける（月に1度）
	<b>大学、専門学校との連携</b> 学校、学生のゼミ研究とともにつくっていく
市民	<b>年代別に合わせた発信方法</b> 若者（ツイッター） 中年（ツイッター、手紙） 高年（手紙） 提案の機会と場（市民）、行政との懇談会 広報、地元メディア以外を使った情報伝達方法を考える

Cグループ

市民/行政/ 共通の別	内容
共通	<b>全市民からの情報収集</b> 個人のアイデアを収集する場や方法 伊東市の運営に自分も参加しているという意識を養う 市民の活発な人を立てて行政のサポートをさせる 気付いたことを市に投書できる様に専用の封書、ハガキを各戸に配布する 幅広い年代での話し合う場を設ける
	<b>市民活動のアピール</b> 短期間に多方面から提案を集め、イベントとして注目を集める！（新聞、CM、広告） 区ごとのイベント（催し物等）ものを多様化する 市役所や出張所、コミセンを身近なものに感じられるようなイベント イベントの様に一斉に行う（注目集め） イベントへの参加率を高める イベントに積極的に参加する体制を整える 伊東市に関する興味をひく行事、イベントを市民の手で発案していく
	<b>自治会、消防団つながりの強化</b> 消防団等地域参加を活発にして良い意見を集める 区長と住民との意見交換の場を増やす 地元民が集まり易い環境を作り提案を集める 個人で場を作ることは難しい【仲間集め】 小さな団体の意見を多く集め、色々な特色のある意見を集める 小中学校単位別の議会新聞づくり
	<b>その他</b> あらゆる人の意見をあらゆる場からあらゆる日程で多様に聞いていく！ どこでも提案が出せる環境の整備（メール、FB、ツイッター、意見箱、手紙、小さな団体、コミュニティー） 役所内の情報共有の強化 それぞれが参加出来るテーマを創る。各地域性を活かしたテーマを創る。 地域SNSを設置しリアルタイムでの議論、提案が可能な場を作る イベントのCMを改善する。情報の発信、収集の工夫 他業種との話す場を設ける 隣接する市町村地区との交流、意見交換をしていく→伊東が見えてくる 市役所業務により、関係する市民団体の窓口を設置する 休日の提案窓口を設置 今日のような機会を増やす。例えば 地域→コミセン 企業→市役所8F 個人→コミセン、出張所、役所等の場で 情報の伝達方法を集約する 役所内でのヨコの関係する課の中でも意見を交換していく 公民館、コミュニティーセンターで討論ができる環境を作る 職種別事業者と役所、もしくは異業種間同士の交流の場づくり 今回のような行政と市民が話し合う場を多く設ける 企画会議から市民参加 問題点解決へ向けて（市と市民の）コミュニケーションをとれる時間と場所を定期的に設ける 役所内の関係する課の中で対象市民から声を聞く 職業体験としての子供の教育（現場見学、体験…）

Dグループ

市民/行政/ 共通の別	内容
行政	<b>新たな情報発信の手段</b>
	市の情報発信手段をたくさん増やす。紙を使う。新しい方法をたためす。 広報、ケーブルテレビ等、長く伝達する
	支所ごとに情報の発信
	広報いとうに活動の情報伝達すること
	広報とは別に時期に関係のない情報を集めた資料の配布
	町内会回覧板に地域活動情報伝達収集するなど
	出張所、金融機関など人間集中場所における情報コーナー設置
	季節ごとのスケジュール掲示（早めのお知らせ）
	一般の新聞を使った折込チラシ
	<b>意見の吸い上げ方法の改良</b>
様々な団体や集まりから意見を吸い上げるシステムをつくる（団体登録、様式作成、結果報告）	
町内→区→市と意見を吸い上げるシステムづくりをする	
市職員のいろいろな地域観光地などへの現場視察	
市民全員参加の選挙的な投票（通知表）	
各地域に意見箱の設置	
各コミセンに行政に対して意見できるパソコンを設置（パソコンができない人は用紙に記入して投函でもよい）	
地域ごとに異業種の事業者を集めて行政の方もまじえて意見交換の場を定例化する	
情報提供に対してポイントをもうけ、ポイントがたまると地域振興券がもらえるなどの特典を設ける	
組、町内会員以外の人への伝達方法を考える	
市民の声、公開する	
市民	<b>イベントの公募改善</b>
	イベントの案を公募する（改善） 市民と行政が一緒になってやる【イベント】（市民主導）
共通	<b>新たな情報収集</b>
	<b>その他</b> 今回のような話し合いの場を行政は積極的につくり参加のハードルをさげる 市民間で共有したい情報を登録や更新できるシステム

Eグループ

市民/行政/ 共通の別	内容
行政	<b>市職員の積極的な訪問</b>
	市政は積極的に市内に出ていき市民から情報意見を聞き入れる
	行政は綿密な計画をたて、正しい情報を提供していく
	ご意見、苦情等に対する対応、できるだけ現地に行き顔を合わせて話す
	提供していただいた情報についての回答をしっかりと出す
	<b>気軽に行ける相談所の設置</b>
	情報交換の場をできるだけ多く作り情報を共有する【市政】
	市民も市役所に出向き情報交換する
	市役所を気軽に利用できる様にする（よろず相談）
	<b>広報いとうの活用</b>
広報いとうにもっと市民の写真を載せる	
市民は市からの情報を常にアンテナをはり（広報いとう等で）参加していく	
広報をもっとクリアに放送する	
広報いとうの充実	
広報「いとう」の充実（読みやすく）	
子ども達への市の活動の分かる講座の開設（家で親に伝える）	
住民（市民）の興味のある部分にしぼった情報の提供（子育て策）	
市広報に市民の声を載せるスペースを作る	
役所の文体でなく平易で親しめる表現	

	<b>地域のリーダー（区長）への指導と各地域の施設の活用</b>
	地域の会館運営の指導を市側が徹底させる 小さい単位として、まず町内会利用 各区への指導 区内清掃、敬老会について ①どうしたら住民が気安く訪れることが出来るか ②利用者が少ないと開店休業状態で勿体ない！
	<b>ケーブルTVを使っでの広報の充実</b>
	ケーブルTVをもっと魅力的なものにして見る機会を増やす 市内の公共施設のTVを広報に利用する（病院、駅）
市民	<b>イベント周知の具体策</b>
	イベントをやったら、その時に次のイベントの紹介をする 口コミ、ボランティアを募集する

## F グループ

市民/行政/ 共通の別	内容
市民	<b>意見交換の場を定期的で開催する</b>
	意見交換の一般公募（若い方を中心に） 今回のこのような形での意見、情報交換 行政主体のイベントキャラバン（コミセン等使用） 市民からの意見、アイデア収集のインセンティブ 市民からの意見（アイデア）に対するディスカッションの場を定期開催 報酬を上げてもっと参加者を増やす 市民参画についての勉強会等を誰でも参加できるように開催し理解を得る テーマを作り参加型セミナーやワークショップで自由に討論する機会を作る
	<b>目安箱に積極的に投函する</b>
	既存の目安箱などの一方向性だけでない対話のとりくみ
	<b>その他</b>
	事業所の協力を得て社員には積極的に参加してもらえるシステムを作る 協働の為新しい仕事を作る（例、住宅、証明 etc） 病院とペットの病院を充実させる
行政	<b>事業所、学校、高齢者、障害者等の対象ごとに定期的な情報収集</b>
	各事業所（法人・個人）の若い年代の方たちに集まってもらい、これからの伊東について話しあってもらう 学校単位で子供達がどんな事を感じているのかなど要望を提出してもらう 各年代別や各世代の代表を今回のように抽出して対話から問題点をくみ上げる 協働で元気な老人も失業者も障害者も働ける第3セクターの様な組織を作る 学校の教育現場でテーマを与え、市民、子供達の意見をとり入れる
	<b>情報開示（フィードバック）</b>
	情報開示、みえる化 セミナー、ワークショップでの意見が上がり検討していることもインターネットなどで開示 情報をとる為にホームページではなくアプリを作り簡単に見られる様にする ディスカッションでの進捗の公開（ツール・媒体活用）
	<b>その他</b>
	もっとマスコミを利用して情報を発信する まず行政からの情報発信ツールの作成、見直し

10. グループ内で話し合い、重要と思われるもの3つに絞り、3つ以外に残したいものを2つ以内で残したもの。(テーマ3)

Aグループ

	【行政】	【市民】
1		町内会のあり方
2	専門の窓口の設立	
3	話し合いの場作り	
①	協働でのイベントづくり	
②	メディア発信	

Bグループ

	【行政】	【市民】
1	アンケート箱の設置(地域別・年代別) 漠然とした意見ではなく、具体的テーマ(例:月に1回広報いとうでテーマを決める)を(行政で)決めて身近な場所(市民)に出す	
2	年代別に合わせた発信方法 ツイッター→若者・手紙など	
3	トークの継続性～メンバーを変えて継続していく	
①	大学、専門学校との連携	

Cグループ

	【行政】	【市民】
1	全市民への情報の提供、収集	全市民からの情報発信及び交換
2	市民活動への支援	市民活動のアピール
3	自治会、消防団つながりの強化	自治会、消防団つながりの強化

Dグループ

	【行政】	【市民】
1	新たな情報発信の手段	
2	意見の吸い上げ方法の改良	
3		イベントの公募改善
①	新たな情報収集	

Eグループ

	【行政】	【市民】
1	市職員の積極的な訪問	
2	気軽に行ける相談所の設置	
3	広報いとうの活用	
①	地域のリーダー(区長)の指導、各地域の施設の有効利用	
②	広報誌以外(ケーブルTV, 口コミ)でのPR	

Fグループ

	【行政】	【市民】
1	事業所、学校、高齢者、障害者等の対象ごとに定期的な情報収集	意見交換の場を定期的に開催する
2	情報開示(フィードバック)	目安箱に積極的に投函する
①	目安箱をもっと有効な場所に設置する	
②	インセンティブ	

11. グループごとに出された、重要、残したいものに対し、参加者が1人4点を持ち点として、重要だと思う意見に投票した結果。(テーマ3)

得票	内容	行政/市民
17	町内会のあり方	【市民】
16	話し合いの場作り	【行政】
14	アンケート箱の設置(地域別・年代別) 漠然とした意見ではなく、具体的テーマ(例:月に1回広報いとうでテーマを決める)を(行政で)決めて身近な場所(市民)に出す	【行政】
13	気軽に行ける相談所の設置	【行政】
9	意見の吸い上げ方法の改良	【行政】
7	事業所、学校、高齢者、障害者等の対象ごとに定期的な情報収集	【行政】
6	全市民への情報の提供、収集	【行政】
6	市民活動への支援	【行政】
5	市職員の積極的な訪問	【行政】
4	Iトークの継続性~メンバーを変えて継続していく	【行政】
4	情報開示(フィードバック)	【行政】
4	市民活動のアピール	【市民】
4	自治会、消防団つながりの強化	【市民】
2	大学、専門学校との連携	【行政】
2	自治会、消防団つながりの強化	【行政】
2	広報いとうの活用	【行政】
1	全市民からの情報発信及び交換	【市民】
1	イベントの公募改善	【市民】
1	新たな情報収集	【行政】